

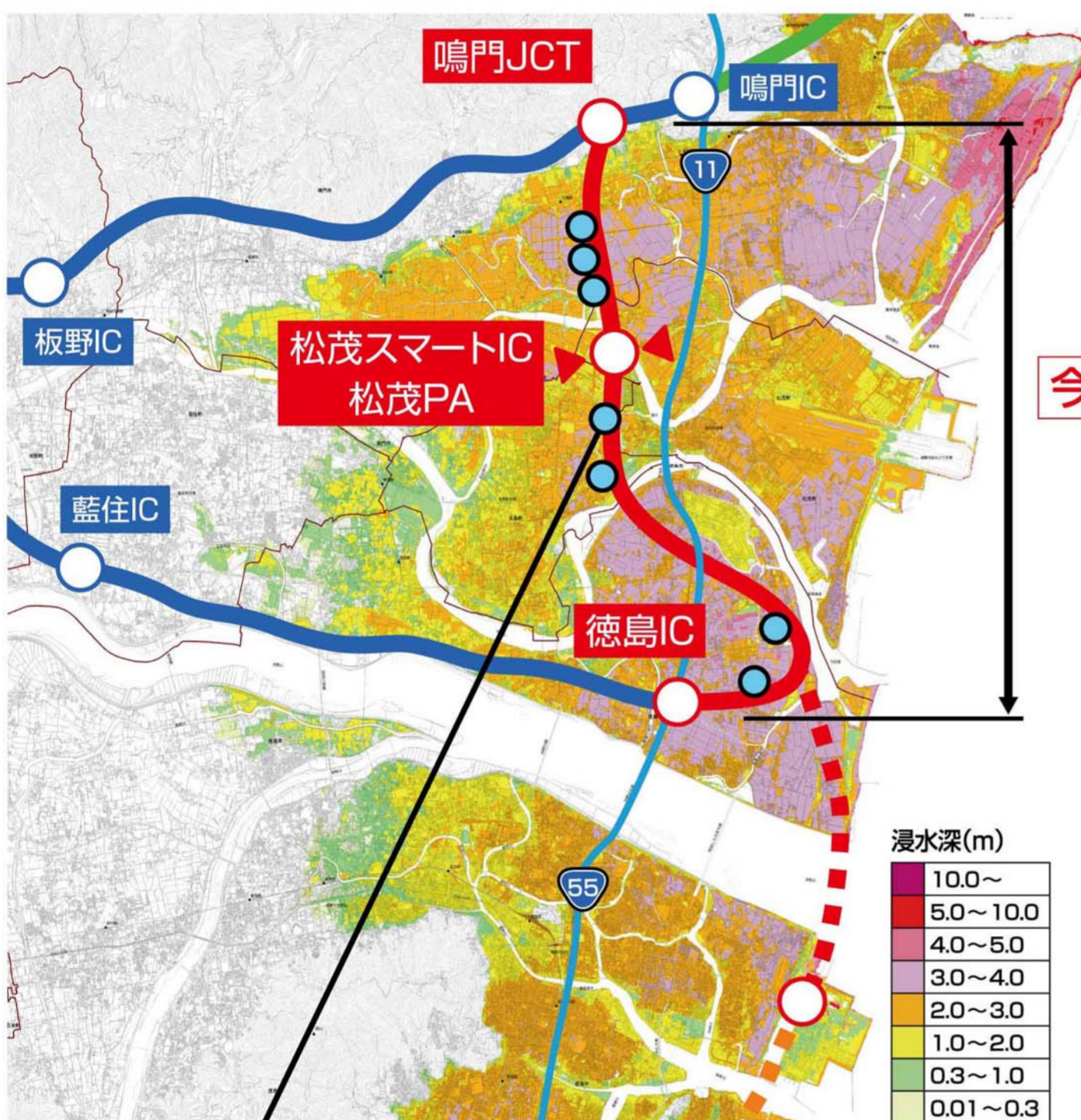
# 鳴門JCT～徳島IC間の整備効果

## 自治体との連携 — 地域の防災力向上 —

今後発生が予想される南海トラフ地震による災害発生時には、復旧作業や緊急輸送路として貢献することが期待されます。

また、沿線自治体と連携し、高速道路と一体となった津波一時避難場所を整備することで、地域の防災力向上を図っています。(開通区間に7箇所設置)

### 徳島県東部の津波浸水予測範囲



●: 津波一時避難場所

津波により一般道が道路機能を失った場合、高速道路は避難や物資輸送に重要な役割を果たします。

出典: 徳島県「徳島県津波浸水想定公表について」(平成24年10月31日公表)

今回開通区間



### 津波一時避難場所の一例 (北島町太郎八須地区)



津波、洪水による浸水被害や液状化による市内幹線道路の寸断などによって、被害の拡大や地域の孤立などが危惧される。

当区間は、大地震による津波襲来の際の防波堤機能や避難場所としての機能を有し、関西圏や四国各地から徳島市中心部に直結する緊急輸送路としての機能を併せ持つ「命の道」である。

～徳島市コメントより～

みち、ひと…未来へ。

